

とき の す 時ノ寿の森通信

<http://outdoor.geocities.jp/tokinosunomori>

E-mail : tokinosunomori@yahoo.co.jp

<連絡先> 掛川市中宿 1 1 3 (TEL・FAX 0537-23-0412) 「森の駅 時ノ寿」(TEL 0537-28-0082)

第 21 号

2012. 1. 7 発行

NPO 法人 時ノ寿の森クラブ

<もくじ>

- ★ごあいさつ 1
- ★「国際ワークキャンプ掛川」のご案内 2
- ★「時ノ寿 standard・木組の家完成見学ツアー」のご案内 2
- ★「写真展 蘇る緑～日本の森林いま・むかし～」のご案内 3
- ★「2012年・いのちの森づくり植樹祭」のご案内 3

- ★近況報告 (時ノ寿ホームページ・ブログより)
 - 2011年12月26日(月) 前を向いて行こう 4
 - 2011年12月29日(木) 子どもたちの為に 4
 - 2012年1月1日(日) 森と海をつなぐ2012年 5
 - 2012年1月4日(水) 森林セラピーを試す年 6

- ★ホストファミリー募集チラシ 別紙
- ★1月～3月活動予定表 別紙
- ★「時ノ寿 standard・木組の家完成見学ツアー」の案内図 別紙

<ごあいさつ>

2012年が穏やかに始まりました。あけましておめでとうございます。

さて、我が国の近代化によって築かれた安心・快適な居住環境に対する私たちの価値観は、昨年発生した東日本大震災、原子力発電所事故、紀伊半島大洪水による多くの犠牲を目にし、大きく揺らいているのではないのでしょうか。経済至上主義、物質的豊かさを追求してきた政治や経済の歪みが至る所で起きていますが、それは有権者であり消費者でもある私たちが、選択した結果でもあります。

一昨年は国連生物多様性年、昨年は国際森林年と、地球上の様々な生物の命が生まれ育まれるために、人間は今何をしなければならないかが世界的に問われました。そのような中で、これほど自然との共生とともに人と人とのつながりが大切であるかを、国民が等しく体験させられた日本人としては、今年を未来への新たな出発点としなければならないと思います。

私たちは、昨年の大災害を幸いにも免れましたが、狭い国土に暮らしているからには同様な大災害をいつ被っても不思議ではありません。私たち時ノ寿の森クラブは、6年前の活動開始以来、荒廃の進むふるさとの森林を再生することを目的としてきました。広大に広がる森林の保全は、言うは易く行うは困難ですが、我が国を襲った昨年の大災害は、私たちの活動の正しさを証明してくれました。

今年は、森林保全活動を山から海に、また社会の多様な面にも広げていきたいと思っています。どうぞ、本年もご支援をよろしくお願いいたします。

国際ワークキャンプ・掛川 2012 開催！

～ 世界中のボランティアが時ノ寿の森に集まり、森林を再生する ～

世界中のボランティアが、森林再生活動に参加してくれます。ぜひ、クラブ員のみならずも一緒に活動をし、友情・相互理解を深めてください。また、1泊2日のホームステイも計画（同封のチラシ参照ください。）していますので、ぜひお引き受けください。

活動期間 2月26日（日）～3月11日（日）2週間

開催場所 時ノ寿の森

内 容 森林の間伐作業、谷川を覆っている雑木・竹林を除伐、座談会、交流会

時ノ寿 standard・木組の家が完成！

◆◆見学ツアー開催！環境にも住む人にも優しい家◆◆

時ノ寿材を使い、土壁、三和土を standard とする伝統的な木組みの家です。エネルギーは電力に頼らず、暖房は薪ストーブ、給湯は太陽光給湯+ガス、冷房は日射遮蔽と通風、土の蓄冷と冷輻射で一次エネルギー消費量は従来の1/2になります。見学して体感してください。

日 時 2月18日（土）午前10時～午後4時、19日（日）午前9時～午後4時
場 所 同封の案内図を参照ください。問い合わせ先：副理事長清水 ☎090-3301-6145



写真展「蘇る緑～日本の森林 いま・むかし～」開催！

●●全国巡回写真展の第一弾が掛川市立総合病院で●●

森林再生キャンペーン「つながる森プロジェクト」を展開中の毎日新聞社と「緑の募金」で知られる公益社団法人国土緑化推進機構は、写真展「蘇る緑～日本の森林 いま・むかし」を共催し、全国を巡回します。その第一弾を掛川市で開催することになりました。

澄んだ空気と清らかな水、また水害のない安定・平穏な山々が、いつまでも維持されることを願って開催されます。多くの方々に日本の国土の素晴らしい緑をご覧いただき、森の重要性とともに先人の苦勞を忍んでいただきたいと思います。

- 開催期間** 平成24年1月17日（火）～平成24年2月16日（木）
（毎日午前8時15分から午後5時まで。土・日曜日は除きます。）
- 開催場所** 掛川市立総合病院ギャラリー（正面玄関を入り右方向に通ずる廊下壁面）
- 展示写真** 「襟裳砂漠」が緑に蘇った北海道えりも町百人浜、日本三大禿山といわれる滋賀県大津市の田上山、緑化に成功した栃木県日光市の足尾鉦山跡のほか、世界遺産白神山地のブナ林や屋久島の縄文杉、「綾の森」（宮崎県綾町）、「大台ヶ原」（奈良県上北山村）など国内有数の森林、美林の写真。
- 共催者** 毎日新聞社、公益社団法人国土緑化推進機構、掛川市立総合病院
NPO法人時ノ寿の森クラブ

<予告> 2012年の「いのちの森づくり植樹祭」

◆◆時ノ寿の森クラブが主催する今年の植樹祭◆◆

時ノ寿の森クラブでは、昨年まで通算4回の「いのちの森づくり植樹祭」を開催し、延べ1,100本の土地本来の広葉樹を植えてきました。毎日新聞社・国土緑化推進機構のご支援により世界の森づくり指導者であります宮脇昭先生のご指導を仰ぎ、クラブ員の皆様をはじめ市民や全国の多くの賛同者によって支えられてきましたが、これからも一層のご支援をよろしくお願いいたします。

本年の植樹祭につきましては、森林が市面積の半分を占める森林都市掛川市ですので、行政と連携し、まちづくり・人づくりとしての「いのち森づくり植樹祭」を計画しています。例年は春でしたが、秋の開催となりますので、ぜひご予約を立てておいてください。

<詳細は追ってご案内します。>

植樹祭：10月27日（土）午前

来春オープンする掛川市・袋井市統合新病院建設地で3000本の植樹を行います。

国際シンポジウム：10月28日（日）午前～午後

宮脇昭先生ほか世界の植物生態学者をお招きし、「いのちの森づくり」の大切さを掛川市から国内外に向けて提唱していただきます。



＜近況報告＞ （時ノ寿ホームページ・ブログより）

2011年12月26日(月) 前を向いて行こう

昨晚、テレビドラマの「坂の上の雲」最終回を観ながら、今年1年を振り返り、新年の生き方をイメージしてみた。今年の暮れほど、国民が一つにならなければいけないと感じたことは、過去に例を見ないと誰かも言っていたが、私もドラマの主人公に酔いながら、そう強く思った。政治家も企業家も、国民の前で真剣な議論をし、発信をしてもらいたい。



たとえ金が無くても、人と人のつながりや思いやりで、心あたたかく年の瀬を迎えられるような社会にしなければいけない。昨今の政治を見ていると、いつまで待っていても到底なりそうにない。このような世相の中で、新年は自らの気持ちに素直に行動することとし、そして共鳴する社会活動に参加してみようではないか。

坂の上の雲の主人公秋山真之は、バルチック艦隊を全滅させて故郷に凱旋したが、息を引き取った亡母の前で「母さんよ、俺も少しは世の中のためになったんじゃないか？」と、寂しそうにつぶやいている姿が印象的だった。戦争に勝利しても、その裏にはロシアと日本の途方もない数の兵隊が亡くなっているという事実が、戦争なのである。

近代文明の発展の末の多くのひずみを感じた2011年であったが、来る年は未来のために、希望に向かって前を向いて行こうではないか。

2011年12月29日(木) 子どもたちの為に

年の瀬を迎えて、各種メディアは今年1年を綴った映像を伝えている。何度見ても、東日本を襲った大津波の映像は、私たちの心を震撼させる。あわただしい年の瀬の中でも、私たちはこの映像を見ながら、東日本の多くの人々が命を賭して教えてくれた数多くの現代社会への教訓を、忘れてはならないと痛感する。

中でも特に、気仙沼市階上中学卒業式で読まれた卒業生代表の梶原裕太君の答辞は、何度聞いても私たち大人に対して、新たな気付きをさせてくれる。若干15歳の少年が、辛く悲しく、天への恨みの境地を露わにしてもおかしくないのに、悔やまずに与えられた命を大切にしながら前を向いて歩いて行こうとする意思表示と雄姿に、すべての大人たち

は、新しい年への決意をしたのではないかと思う。

梶原裕太君の答辞の一節を掲示する。「階上（はしかみ）中学校と言えば防災教育と言われ、内外から高く評価され十分な訓練もしていた私たちでした。しかし自然の猛威の前には人間の力はあまりにも無力で、私たちから大切なものを容赦なく奪っていきましました。天が与えた試練と言うには、むごすぎるものでした。辛くて悔しくてたまりません。しかし苦境にあっても、天を恨まず運命に耐え、助け合って生きていくことが、これからの私たちの使命です。」



2012年1月1日(日) 森と海をつなぐ2012年

2012年が穏やかな日とで始まりました。皆様、おけましておめでとうございます。東日本をはじめとして紀伊半島など、昨年の大災害からの復興を国挙げて前進させなければならない年です。しかし、その原動力となるのは、被災地の人びとだけではなく、老若男女を問わずすべての国民が等しく、それぞれの分度の中で希望を持ち、前を向いて生きて行くことであると思います。



私たち時ノ寿の森クラブは、6年前の活動開始以来、荒廃するふるさとの森林を再生することを目的としてきました。広大に広がる森林の保全は、言うは容易く行うは難しですが、昨年の大災害は私たちの活動の正しさを証明してくれました。

私たちの住む掛川市は、東日本を襲った巨大地震に匹敵する規模が予想される東海地震の震源域に立地しています。沿岸には、高さ10mを超える大津波に見舞われる住宅地が多数存在し、中部電力浜岡原子力発電所からは5～30kmの範囲に市域はほぼ入ってしまいます。時ノ寿の森クラブは、この現実を冷静に捉え、行動を起こさなければ行けない年であると思います。

今年は活動の範囲を山から海に広げる年であると思っています。どうぞ、皆様、本年もご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

2012年1月4日(水) 森林セラピーを試す年

昨年は国際森林年で、世界各国が未来のために地球上の森林を保全することに真剣に取り組んだ。森林は、様々な命が生まれ育まれる「いのちの源泉」と言われるとおり、生命循環の基盤であると思う。

この考え方が進んでいる西欧諸国では、すでに医療の現場において心身の病的状態の治療に森林の癒し効果を取り入れており、その効果を森林セラピーという。



時ノ寿の森には、1年前に作った「命を育む道」という1周1kmの森林セラピーを体感するコースがある。このコースをゆったりと歩くと所要時間は概ね1時間である。マッサージなどいろいろな心身を癒す療法があるが、今年は、ぜひ森林セラピーを時ノ寿の森で試してみてもどうだろう。私も、今年は公私に激動の1年となりそうなので、心身の健康維持のために森林セラピーを取り入れようと思う。写真は、時ノ寿のパワースポットの一つ。